

No.152
2006.
10.31

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

<http://www4.zero.ad.jp/gkenhaku/>

「美しい国、日本」について

岐阜県博物館協会会長 若宮修古館 若宮 多門



9月26日、第90代首相に安倍晋三氏が選出された。周知のことではあるが氏は初の戦後生まれの首相である。昭和26年に生まれた私にとっては同時代人とし

て、氏に関する一連の報道を興味深くながめて来た。「北朝鮮」「靖国」あるいは「戦後体制」の見直しなど、その将来に一抹の危うさを感じさせるものの、その歴史認識の中には不思議な期待感を持たせるものがある。

私達の世代は自由と平等を手にして生まれしてきた。当然のように。学校でも、社会に出てからも常に大切なものであった自由・平等。やがて他人に迷惑さえかけなければ何をやっても自由と、身勝手な個人主義が横行し経済偏重の社会が生まれ、気が付けば親子や家族が、子ども社会や地域社会が乱れ荒廃し、この国までもが無意味なものになろうとしている。戦後60年こうして私達は経済的な豊かさとし引き換えに多くのものを失ってきた—思いやる心、感謝、礼節、奉仕、協調そして美しい自然や守るべき伝統……—を。

新首相が高らかに掲げた『美しい国、日本』。このフレーズにほのかな期待を持ったのは私だけであろうか。所信表明演説に目を通してみる。〈はじめに〉では「私が目指すこの国のかたちは…『美しい国、日本』であります。」とし「一つ目は、文化、伝統、自然、歴史を大切にす国であります。」とその第一番目にあげ、〈むすび〉において「私達の国、日本は、世界に誇りうる美しい自然に恵まれ

た長い歴史、文化、伝統を持つ国です、その静かな誇りを胸に、今、新たな国創りに向けて、歩み出すときがやってきました。」と述べている。この国の理想、この国のかたちが如何にあるべきかと思う時、歴史、文化に関わる私にとってこれらの表現だけでは表面的なものとし映らない。

そもそも大切にすべき我が国の文化とは何なのか？それには各々なる意味があり、他の国々とは異なる特殊性があると論ずべきではないのか、そしてそこから導き出された理念をもってこの『美しい国』のかたちが示せるのではないか。その結果としての教育論への展開でこそ、その重要性は理解され、それゆえの私の期待感なのである。今後は大いに日本文化を論じてもらいたい。それは必ずや文化行政に反映されることとなろうから。

日本の文化とは？と学ぼうとする時、多様なヒントや資料を与えてくれるのが正に博物館（美術館、資料館、動植物園、水族館…）や図書館さらには各地に在る寺院、神社であろう。そこには戦後私達が忘れてきてしまったものが大切に保存されている。

ここに（故）松下幸之助氏の『学ぶ心』を引用する「学ぶ心さえあれば、万物すべてこれわが師である。語らぬ石、流れる雲、つまりはこの広い宇宙、この人間の長い歴史、どんなに小さいことにでも、どんなに古いことにでも、宇宙の摂理、自然の理法が密かに脈付いているのである。そしてまた、人間の尊い知恵と体験がにじんんでいるのである。これらすべてに学びたい」

『美しい国、日本』をめざし、博物館の更なる充実と活用が待たれる。

創立40周年記念事業について

40周年記念式典

岐阜県博物館協会創立40周年記念式典が、5月26日（金）、岐阜県博物館ハイビジョンホールで行われました。

記念式典に先立ち、県内の博物館振興事業に資するため、(財)田口福寿会、(株)十六銀行、(株)大垣共立銀行、岐阜信用金庫、東濃信用金庫、高山信用金庫の6企業、団体様より、当協会へ寄付金目録の贈呈がありました。



式典では、会長の若宮多門氏の式辞に引き続いて、永年協会の発展に尽力された青木充夫氏、吉田幸平氏、松本五三氏の三氏が特別功労者として表彰され、宮崎惇氏が棚橋記念賞を受賞されました。

また、来賓として岐阜県から出納長の杉江勉氏、岐阜新聞社会長の杉山幹夫氏から祝辞をいただきました。

式典終了後、講師に独立行政法人 国立西洋美術館長の青柳正規氏をお迎えし、「ポンペイの輝きとソンマ・ヴェスヴィアーナの発掘」という演題で、県民も参加した文化講演会が開催されました。2001年より取り組んでいる

ソンマ・ヴェスヴィアーナでの発掘の様子を事例にしながらお話をされ、紀元79年8月24日のヴェスヴィオ山の噴火で埋没したローマ帝国の地方都市、ポンペイで暮らす市民の生活の様子がよみがえるようで、とても興味深い講演会でした。



40周年記念事業

今年度から新たに、協会創立40周年記念事業として①ホームページの作成事業、③ガイドブックの作成、②地域の博物館活性化支援事業の三つの大きな事業を推進しています。

博物館協会のホームページは、協会に所属する会員の施設の概要をわかりやすく紹介し、博物館、美術館、資料館など情報をタイムリーに広くPRするものです。

また、県内の博物館施設を網羅したガイドブックは、最新情報の収集を行い、作業を鋭意進めているところです。前回（昭和60年発行）から、20年を経過しているため、県内の文化施設の現状も大きく変わり、発刊が待たれるところです。

40周年記念事業の中で、最も目玉となる地域博物館活性化支援事業については、広い県土を有する本県において、県内を5つのブロックに分け、地域の会員のニーズにマッチした多様な博物館活動を支援するものです。各地域の具体的な事業内容について検討が進められています。会員の皆様方の積極的な参画を得て、実り多い事業とする予定です。

(岐阜県博物館協会事務局 松尾弘之助)

協会新役員のご紹介など

平成18年度通常総会（5月26日）にて、下記の新役員が選出されました。

| 役職 | 氏名 | 所 属 |
|--------|-------|-----------------|
| 名誉会長 | 土野 守 | 高山市長 |
| 会長 | 若宮 多門 | 若宮修古館 |
| 副会長 | 名和 哲夫 | 名和昆虫博物館 |
| | 古川 秀昭 | 岐阜県美術館 |
| | 古川 和明 | 岐阜県博物館 |
| | 板本 徹 | 岐阜県現代陶芸美術館 |
| | 田中 彰 | 高山市郷土館 |
| 専務理事 | 松尾弘之助 | 協会 事務局 |
| 理事（岐阜） | 藪下 浩 | 岐阜市歴史博物館 |
| | 篠田 愛信 | 内藤記念くすり博物館 |
| | 堀 由紀子 | 岐阜県世界淡水魚園水族館 |
| | 丸山 順士 | 岐阜市科学館 |
| （西濃） | 片野 知二 | 片野記念館 |
| | 栗野 守之 | 揖斐川歴史民俗資料館 |
| | 神野 正美 | 海津市歴史民俗資料館 |
| | 高木 優榮 | 関ヶ原歴史民俗資料館 |
| | 野原 章 | 大垣市三館総括責任者 |
| （中濃） | 市原 俊美 | 美濃和紙の里会館 |
| | 可見 光生 | 美濃加茂市市民ミュージアム |
| | 齋藤 仁司 | 齋藤美術館 |
| | 山口 哲 | 可見郷土歴史館 |
| （東濃） | 奥村 好次 | 瑞浪市化石博物館 |
| | 各務 一彦 | 中山道広重美術館 |
| | 近藤 信幸 | 中津川市鉱物博物館ほか |
| | 田中 英俊 | 土岐市美濃陶磁器歴史館 |
| | 平林 典三 | 日本大正村 |
| （飛騨） | 川上 裕惟 | 下呂発温泉博物館 |
| | 谷田 勉 | 高山祭屋台会館 |
| | 平塚 林司 | 光記念館 |
| | 平光 明彦 | 岐阜県ミュージアムひだ |
| | 谷端 敏明 | 飛騨古川まつり会館 |
| | 宮脇 紀忠 | 白川郷野外博物館合掌造り民家園 |
| 監事 | 國光 正宏 | 関市 |
| | 日比野安平 | サイエンスワールド |
| | 松原 雅志 | かがみがはら航空宇宙科学博物館 |
| 顧問 | 吉田 幸平 | 岐阜市 |
| | 松本 五三 | 郡上八幡民芸美術館 |
| | 青木 允夫 | 内藤記念くすり博物館 |
| | 宮崎 惇 | 笠松町 |

☆特別会費・寄附金をいただいた会員名(敬称略)

平成18年10月20日現在

- ・内藤記念くすり博物館
- ・光記念館
- ・大橋コレクション館
- ・飛騨高山美術館
- ・大松美術館
- ・岐阜県世界淡水魚園水族館
- ・高山祭屋台会館
- ・名和昆虫博物館
- ・飛騨民俗考古館
- ・岐阜天文台
- ・郡上八幡民芸美術館
- ・飛騨の匠文化館
- ・齋の博物館
- ・海津市歴史民俗資料館
- ・(財)岩仲奨学会 お数珠館
- ・ミュージアム中仙道
- ・戸塚 登久子
- ・半原版画館
- ・宮崎 惇
- ・日本土鈴館
- ・飛騨高山まつりの森
- ・林 俊郎
- ・日本最古の石博物館
- ・かがみがはら航空宇宙科学博物館
- ・匿名

☆新規加盟会員の紹介

- ・大垣市守屋多々志美術館
〒503-0887 大垣市郭町2-12
TEL:0584-81-0801
- ・ハートピア安八
〒503-0198 安八郡安八町水取30
TEL:0584-63-1515
- ・フェザーミュージアム
〒501-3873 関市日ノ出町1-17
TEL:0575-28-3111 FAX:0575-28-3110
- ・(財)岐阜現代美術館
〒501-3936 関市倉知向山4909-55
鍋屋バイテック会社関工園内
TEL:0575-23-1210

(岐阜県博物館協会事務局)

平成18年度東海地区博物館連絡協議会

期 日：平成18年7月14日（金）

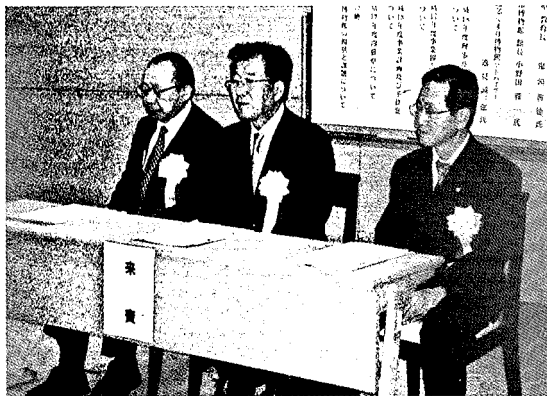
会 場：岐阜県現代陶芸美術館

参加者：78名

盛夏の間近な7月14日東海地区博物館連絡協議会が多治見市の岐阜県現代陶芸美術館で開催されました。



始めに総会開会にあたり、東海地区博物館連絡協議会 若宮会長よりご挨拶をいただきました。また、日本博物館協会 久保庭専務理事、岐阜県教育委員会 鬼頭教育長よりご祝辞をいただきました。



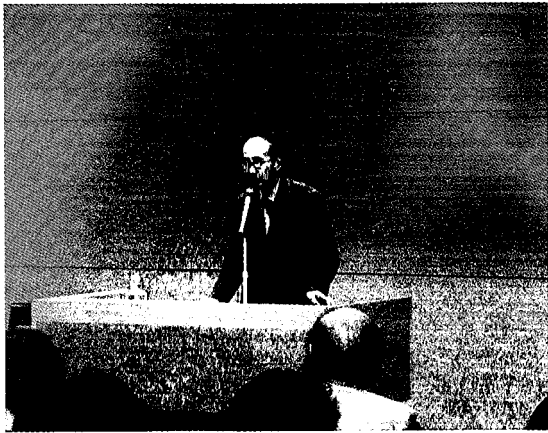
続いて一宮市博物館 小野田雅一館長、内藤記念くすり博物館附属薬物植物園 逸見誠三郎アドバイザーが、永年にわたり博物館界の為に顕著な貢献をされたということで功労者表彰を受けられました。

その後、日本博物館協会 久保庭専務理事より近年における博物館の管理運営に関する動向と日本博物館協会の主要事業について説明がありました。まず、管理運営に関する動向としては、公共・公共的団体への「管

理委託制度」の廃止と民間事業者にも管理を行わせることのできる「指定管理者制度」の創設や公益性の有無に関わらず登記で設立できる非営利法人制度の創設などをまとめた公益法人制度の抜本的改革についての説明がありました。次に主要事業としては以下の8つの事柄についてお話がありました。①平成18年11月16日、17日に第54回全国博物館大会を長崎市民会館で行う事、②歴史、美術系などの専門分野に分かれて当面する諸問題を含め博物館運営に関する理論と実際についての協議を行う事、③平成18年6月21日に東京の二ツ橋記念講堂で全国博物館長会議を開催し、全国博物館が抱える問題点や課題についてを話し合った事、④月刊誌「博物館研究」を博物館の総合研究情報誌として、内外の動向を反映しつつ、博物館の取り組むべき課題について定期的に特集号を組むなど、新しい編集体制のもと内容拡充とデザインの改善に努める事、⑤博物館が様々な人のニーズに対応できるよう調査研究委員会を設け「誰にもやさしい博物館チェックリスト」などのマニュアル作成を行う事、⑥現在進められている指定管理者制度の実施に見られるように、博物館活動全体を経営の視点も含めてより客観的な指標で示すことが求められているためそのベンチマークづくりを行う事、⑦平成16年度に作った自然環境や生活環境への理解を深める教材コンテンツを17、18年度にかけてホームページに乗せ、またCD-ROMにして広く活用できるようにした事、⑧国際博物館会議（イコム）が世界規模で行う「国際博物館の日」と連動して全国的に記念行事を展開する事など多義にわたって報告がなされました。

次に行われた記念講演会では、「やきもの

と酒道」と題して、(社)美濃陶芸協会会長・市之倉さかづき美術館館長の加藤幸兵衛氏よりお話しをしていただきました。



まず、今回会場になった岐阜県現代陶芸美術館がある美濃地方についてのお話がありました。一つ目は全国の陶磁器生産の約半分以上の60%を美濃が占め、次いで瀬戸が18%、残りが有田などの他の生産地である。しかし、この事実を意外に皆さんは知っておらずこのように美濃は生産力はあるが観光的に弱く、全国的知名度が低い。このため窯元は商社のみを相手にするのではなく、消費者に目をもっと向けるべきとお話がありました。

二つ目は美濃特に東濃地方では明治以降各町ごとに特産品が目立つようになる。例えば高田は徳利、笠原は飯茶碗・タイル、市之倉はさかづきというように他の町と競合しないようにやきものを作っている。その中でも市之倉には細密画で有名な加藤五輔がおり、海外の博覧会に作品を出品して賞を受賞している。こうした作品は、土を真似することはできても絵付けや焼成は現代の技術をもってしても再現することは難しいそうです。

次に演題である「やきものと酒道」についてのお話がありました。酒道とは神様と人間がコミュニケーションをとるための儀式であり、江戸時代盛んに行われていたそうです。

こうした酒道についてのお話しを時折冗談を交えながらお話ししていただきました。

その後、現代陶芸美術館の観覧が行われ

ました。当美術館は土岐市境に位置する多治見市東町にあり、平成14年10月にオープンしました。総敷地面積が17ヘクタールという広大な土地に地上3階・地下1階建ての建物です。2F・3Fが美術館になっており、美術館を除くその他の大部分には大展示ホールや国際会議場をはじめレストランや茶室、作陶館などのアミューズメント施設、さらには散策路や展望台などがあり、これらを総称して「セラミックパークMINO」と呼んでいます。建物の設計は、世界的に著名な建築家の磯崎新氏によるもので、自然環境との調和と耐震構造に配慮した施設になっています。



収集作品は、現代陶芸をテーマとして、収集対象を国内外の近現代（19世紀末以降）に絞り以下の3つの点を主眼としています。①19世紀末から20世紀以降における、国内外の作家の陶芸作品（荒川豊蔵・富本憲吉など）、②作家が実生活に用いるためのものとして、あくまで手作りによって制作した、少量生産の陶磁器、③アール・ヌーボーやアール・デコあるいはバウハウスといったモダンデザインの系譜のもの、またマイセンやセーブルといった世界の名窯など、量産を想定しながらデザイン性や芸術性を追及する陶磁器。展示室は大きく二つに分けられ、美術館入口横には美術館収集作家の作品や展示物に関連した参考書籍などを販売するミュージアムショップやデジタルライブラリーが併設されていました。

(機関紙委員土岐市埋蔵文化財センター 中島 茂)

第108回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：大垣城の普請と作事
期 日：平成18年7月16日
会 場：大垣サイトピアセンター
講 師：織豊期城郭研究会 中井 均氏
参加者：150名

平成18年度大垣市文化財保護協会の総会における講演会に共催する形で当講座がもたれた。

大垣城は戦前国宝に指定されていたが、第2次世界大戦末期の大垣空襲で全焼をした。現在の天守は昭和34年に大垣復興の象徴として復元したものである。

講演は日本国には3万以上の城跡があり、そのうち天守が存在したと思われるのは、150ほどであることを確認することから始まった。

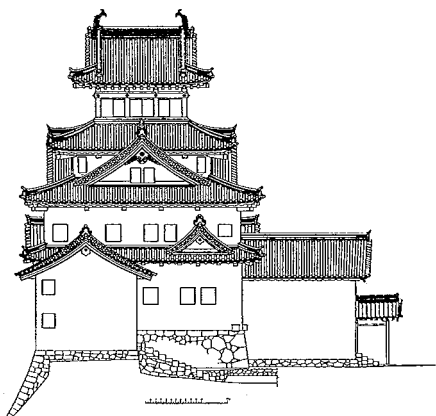
① かつての大垣城は巨大な城郭を備えた立派な城であった。(普請=工事)

正保城絵図に観られる大垣城は、本丸・二の丸・三の丸・六兵衛丸を備えており、さらに中堀・外堀それに外堀からの諸門や中堀からの諸門の構えは日本の名城と言われている諸城に伍している。堀は直線的ではなく様々な屈曲が認められる。土橋に対して横矢のきく櫓の配置もされている。

② 軍略の教科書にもなるような名城といえる。(作事=建築)

元和6年(1620)に改築された四重四階の層塔型天守である。本丸には天守の他三重櫓1基、二重櫓3~4基、他門櫓10基があり、二の丸、三の丸にもいくつもの工夫した櫓をもつ美しい城であったことがうかがえる。

このような内容のことを各地の城の例をひもときながら熱く語られた。そして城の再建は、その地域の郷土愛や意気を示すものであると締めくくられた。



大垣城天守南立面図

(機関紙委員 海津市歴史民俗資料館 瀬古尹宏)

第109回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：対談「加藤栄三・東一両先生との
思い出を語る」
期 日：平成18年9月10日
会 場：岐阜市歴史博物館 講堂
講 師：日展評議員 土屋禮一氏
岐阜県ミュージアムひだ館長
平光明彦氏
参加者：130名



土屋禮一氏

岐阜市歴史博物館で開催の特別展「加藤栄三・東一 響きあう兄弟愛と日本画の世界」に関連して、加藤兄弟画伯に師事した土屋禮一氏と元岐阜県美術館長の平光明彦氏をお招きして開催されました。

対談は、土屋氏の両画伯との思い出を平光氏が伺うかたちで行われました。まず平光氏から二人の生い立ちに始まり画家としてのあゆみが紹介され、次に土屋氏からは二人との出会いのエピソードや、栄三氏とスケッチ旅行で秩父の夜祭りに行ったことなど、印象深い出来事をユーモアを交えてお話くださいました。

また、先輩画家でもある兄を尊敬する東一氏の姿や兄弟の深い愛情を感じさせる様々な逸話、自然や芸術に対する二人の姿勢の違いや類似点なども語られました。両画伯の人となりを知り、芸術を深く理解する上で有意義なお話を伺うことができました。



平光明彦氏

(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 三山らさ)

支援団体・企業紹介コーナー

財団法人 田口福寿会

岐阜県大垣市田口町1番地
セイノーホールディングス株式会社内
TEL 0584-43-2665 FAX 0584-82-5016

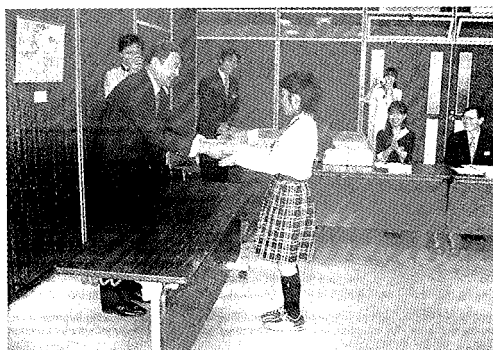
真夏の太陽がじりじりと照りつけ、アスファルトから湯気が立ちそうな暑さの中、大垣市にあるセイノーホールディングス株式会社の本社ビルを訪れました。道すがらカンガルーが描かれたトラックを何台も見かけ、それがこの地区にずいぶん活気をもたらしているのだと知りました。

セイノーホールディングスは、平成17年10月に西濃運輸株式会社から商号変更した西濃グループの親会社・持株会社で、新設分割の西濃運輸株式会社をはじめ、56社のグループ企業を抱える大企業です。しかし、始まりは昭和5年、創業者故田口利八名誉会長がトラック1台から築きあげたと言います。

西濃運輸株式会社設立から21年後の昭和42年、田口利八氏は社会への貢献を目的に、私有財産の一部を寄付して、慈善事業団体「財団法人田口福寿会」を恒久的機関として設立しました。以後、数々の慈善助成活動を通し、社会福祉や地域社会の発展に貢献されました。田口利八氏が亡くなられた後も、故田口利夫西濃運輸株式会社代表取締役会長、セイノーホールディングス株式会社代表取締役会長の田口義嘉壽氏が、そのあとを継がれ、活動は拡大して続けられています。

田口育英金などの育英事業や、留学生助成事業、学校、公益団体への寄付、また、交通、治安など生活の安全推進に対する支援、災害時の支援など、その活動は多岐に渡り、年間の寄付助成費は2億円余りに上るそうです。

花言葉に「幸福を招く」を持つ福寿草。その名にちなんで付けられた財団法人田口福寿会。この先もたくさんの幸せの花を咲かせ続けるのでしよう。



「田口文庫贈呈式での田口義嘉壽会長」

(機関紙委員 岐阜県世界淡水魚園水族館 村上真子)

財団法人 たかしん地域振興協力基金

高山市下一之町63番地
高山信用金庫 本店内
TEL 0577-32-2200 FAX 0577-35-1190

今年の6月で創立80周年を迎えた「たかしん」は、「地元中小企業の育成発展と地域住民の福利向上」を創立の目的とし、地元に着した金融サービスに心掛け、高山・飛騨・下呂市に19店舗と営業を展開しています。

平成5年、たかしんは“地域やお客様の繁栄があってこそ当金庫がある”とのことから、地域の発展に貢献できないかと「財団法人たかしん地域振興協力基金」を設立されました。

主な内容は、地域の産業振興発展に関する活動、地域の社会環境整備、地域の文化・スポーツ等に関する活動への助成を行っており、平成5年度は4件から始まり、平成17年度には12件と年を追う毎に助成先が増加してきました。ただ、できるだけ多くの方のお手伝いをさせて頂きたいとの思いから、同じ所への助成にならないように特定をせず、幅広い活動の助成に心掛けているとのこと。

また、平成8年より地域の方に広くお楽しみ頂けるように、毎年秋には著名なゲストを迎えて無料でご覧頂く「たかしん文化公演会」を実施されています。この企画は回を重ねていく度に人気が高まり、はやばやと整理券が売り切れてしまうほどの盛況ぶりです。

今後も地域社会の発展に貢献していく為に、たかしんは80周年を迎えた今、100周年へのスタートラインの年として、更に豊かで活力のある地域社会を創りあげるべく「使命共同体」としての皆様のご信頼と期待にお応えしていけるようさらなる努力を重ね、今まで誰もやったことのない取り組みを考えていきたいと水上理事長は熱く語られました。



「伊東深水の絵をバックに水上久雄理事長」

(機関紙委員 光記念館 吉井隆雄)

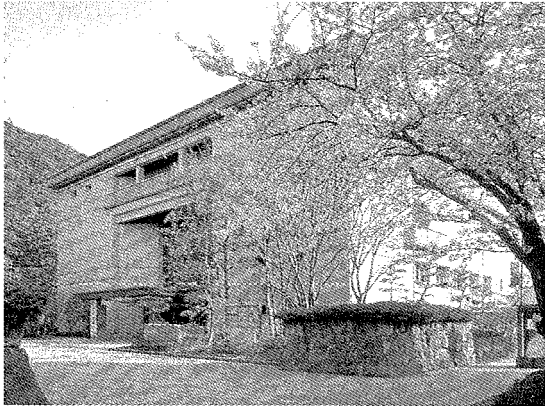
岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2丁目18-1
(岐阜公園内)

TEL : 058-265-0010

FAX : 058-265-0106

<http://www.city.gifu.gifu.jp/event/rekishi/index.html>



岐阜市歴史博物館は金華山のふもと、岐阜公園内に昭和60年にオープンしました。平成17年に開館20周年を迎えて2階常設展示室のリニューアルを行い、体感・体験型の展示を取り入れて新しい博物館として生まれ変わりました。

リニューアルオープンにあたっては、いつ行っても代わり映えがしないという常設展示のイメージを払拭するために、総合展示室と名称を改め、各所に体験コーナーを設けるとともに定期的に展示替えを行っています。また、新たに特集展示室を設置し、普段、展示する機会の少ない資料を中心に、1～2ヶ月ごとにテーマを替えて展示しています。



展示では各時代を均等に扱うのではなく、特に織田信長に焦点を当てた「戦国ワンダーランド」にスペースを割いていることが大きな特徴です。ここでは、永禄12年(1569)当

時の楽市場の町並みを再現し、町屋の中や外では「輪鼓(りゅうご)」や「貝ゴマ」「盤双六」といった戦国時代の遊びを体験し、資料をもとに復元した斎藤道三や信長などの衣装を着ることができます。

博物館に市民によるボランティアの活動を取り入れたことも、リニューアルによって大きく変わった点のひとつです。ボランティアは一般から募集し、ほぼ毎月実施される様々な研修を受けることで、レベルアップをはかりながら体験補助や展示資料の解説を行っています。現在およそ120名が活動をしており、子どもも楽しく体験ができる、見ているだけでは気づかないポイントを教えてもらえる、などと多くのお客様にご好評をいただいています。ボランティアの活動は子ども向けの講座や特別展にも広がりつつあり、今後も歴博を支える大きな柱となることが期待されます。



【アクセス】 JR・名鉄岐阜駅より岐阜バス長良方面行きに乗車し、「岐阜公園・歴史博物館前」で下車(駅前バス停から15分)

【駐車場】 専用駐車場はございませんので、岐阜公園駐車場などをご利用ください。

【開館時間】 9:00～17:00
(入館は16:30まで)

【休館日】 毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合はその翌日)
祝日の翌日
年末年始(12月28日～1月3日)

【総合展示観覧料】 高校生以上300円(240円)
小・中学生150円(90円)

※カッパ内は20名様以上の団体料金
(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 三山らさ)